

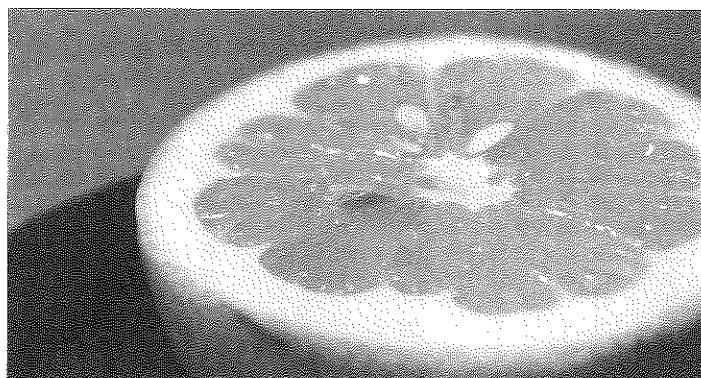


無茶々園の

ジューシー フルーツ

をお届けします。

多賀明浜
無茶々園
KOHNOHAMA

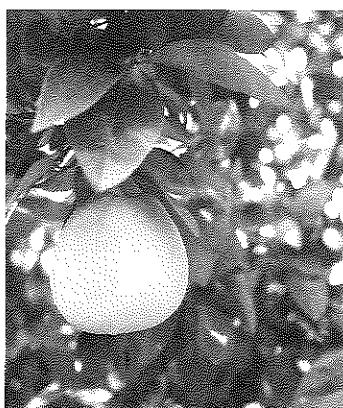


ジューシー フルーツ（河内晩柑）

昭和初期のころ、熊本県河内町の民家で文旦から偶然に発生した品種です。正式な品種名は河内晩柑（かわちばんかん）ですが、そのたっぷりの果汁から無茶々園では「ジューシーフルーツ」と呼んでいます。黄色い外観で、文旦らしい苦みと香りがありますが、何といってもたっぷりの果汁が魅力です。

旬は4月～6月。4月はまだ酸味もあってしっかりした味ですが、5月ごろに入ると開花期と重なってより爽やかで食べやすい風味になってきます。

愛媛でジューシーフルーツが最初に普及したのは県南部・太平洋に近い愛南町です。愛南町の生産者の有志が、農薬を控えた無茶々園流の栽培に取り組み始めたのは2000年ごろ。今でも愛南町を中心に栽培しています。出荷期間が長く、柑橘シーズンを一段階広げてくれた品種で、明浜付近でも栽培量が少しづつ増えています。



樹勢が強く樹はよくできますが、一番の難点は冬季の生理落葉。11月頃の気温変化により、年によっては果実がすべて落ちるほど激しいため、落下防止の化学農薬を使わざるを得ません。そのため河内晩柑についてはすべて化学農薬3回までの低農薬栽培となります。

できるだけ自然のままに



1974年、地城農業の未来を案じ、農薬などの化学物質を多用する柑橘栽培に疑問を持っていたみかん農家の後継者たちがはじめた無農薬栽培の実験園が無茶々園の始まりでした。

『農薬や化学肥料に頼らないでみかん作りを行うこと』これが無茶々園のスタートであり、今でも基本としている考え方です。"人にも自然にも無理のない"栽培方針のもと、明浜では80軒以上の農家が無茶々園のみかん作りを行っています。

大切なのは外見よりも味の良さ

無茶々園の農家は農薬や肥料の使用について、其の通の栽培方針で柑橘作りに取り組んでいますが、農薬の使用を抑えねばどうしてもみかんの見た目は悪くなります。自然環境に配慮して、一般的の栽培で使用される腐敗防止用の農薬を使用しないため、一般に流通しているみかんに比べて痛みやすくなっています。届きましたらフタを開けて、つぶれたり、やぶれたり、痛みはじめている果実がないかご確認ください。

また様々な大きさのものも入っていますが、それは一本のみかんの木にいろいろな大きさや形の実がなるよう、自然のままのみかんを大切にしたいという想いからです。そんな私たちの想いをご理解いただければ幸いです。



無茶々園

明浜の百姓は、耕して天に至ると言われるような急峻な段々畑を代々受け継ぎました。

この地が半農半漁の自給的生活からみかんの経済栽培へと移ったのが六十年前、私達がみかんの有機栽培に舵を切ったのは四十年前、明浜を飛び出たのが十年前。農業や田舎も変わり続けています。

私達は、生まれ育ったこの故郷にしっかりと根ざしながらも、未来に向かって當々と生きていきたいと思っています。経済や農業のかたちがいかに変化しようとも、「鬼追いし小飼釣りし」田舎は永遠でありたいのです。



柑橘が豊富な無茶々園では様々な種類の柑橘を収穫しています。季節ごとの旬の味覚を、ぜひお楽しみください。

品種	収穫期
伊予柑	1月～2月
不知火 (デコポン)	2月～3月
甘夏	3月～5月
オレンジ	1月～2月
せとか	3月
ブルーツ	4月～7月
レモン	10月～3月
八朔	2月～3月
清見	3月～4月
なつみ	4月～5月
ポンカン	2月～3月
はるか	3月～4月
黄金柑	4月～5月
ひょう梅	4月～5月

